【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成19年2月8日(2007.2.8)

【公表番号】特表2002-532407(P2002-532407A)
【公表日】平成14年10月2日(2002.10.2)
【出願番号】特願2000-587743(P2000-587743)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　47/48　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 9/127　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/136　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/704　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/34　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　47/48
Ａ６１Ｋ　 9/127
Ａ６１Ｋ　31/136
Ａ６１Ｋ　31/704
Ａ６１Ｋ　47/34
Ａ６１Ｐ　35/00

【手続補正書】
【提出日】平成18年12月12日(2006.12.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
多薬物耐性細胞に対して治療用化合物を投与する際に用いる組成物で、
担体分子；
担体分子に付着した少なくとも１つのフォレート配位子；及び
担体と会合した治療用化合物を含み、
多薬物耐性細胞中に細胞毒になるのに充分な量の治療用化合物を蓄積する、組成物。
【請求項２】
前記担体は、天然高分子又は合成高分子である、請求項１記載の組成物。
【請求項３】
前記担体は、タンパク質又はペプチドである、請求項１記載の組成物。
【請求項４】
前記担体は、親水性高分子鎖の表面被膜を有するリポソームで、高分子鎖の末端に少なくとも１つのフォレート配位子が付着している、請求項１記載の組成物。
【請求項５】
前記高分子は、少なくとも約３，５００ダルトンの分子量を有するポリエチレングリコールである、請求項４記載の組成物。
【請求項６】
前記治療用化合物は、化学療法薬である、請求項２～５のいずれかに記載の組成物。
【請求項７】
前記治療用化合物は、アンスラサイクリン抗生物質である、請求項２～５のいずれかに

記載の組成物。
【請求項８】
前記治療用化合物は、ドキソルビシン、ダウノルビシン、エピルビシン、イダルビシン、ミトキサントロン及びアントラキノン薬からなる群から選択したものである、請求項２～５のいずれかに記載の組成物。
【請求項９】
多薬物耐性細胞に対して治療化合物を投与する際に使用する薬剤として、請求項１～８のいずれかに記載の組成物。
【請求項１０】
（ｉ）小胞形成脂質及び遊離末端を有する親水性高分子鎖で誘導体化された小胞形成脂質が含まれる小胞形成脂質、（ｉｉ）親水性高分子鎖の少なくとも一部の遊離末端に付着したフォレート配位子、及び（ｉｉｉ）リポソームの中に包含された治療用物質からなるリポソームを含む組成物の多薬物耐性を治療する薬剤を製造するための使用。
【請求項１１】
遊離型では細胞に蓄積しない治療用化合物を、細胞に投与する際に薬剤として使用する組成物で、（ｉ）小胞形成脂質及び遊離末端を有する親水性高分子鎖で誘導体化された小胞形成脂質が含まれる小胞形成脂質、（ｉｉ）親水性高分子鎖の少なくとも一部の遊離末端に付着したフォレート配位子、及び（ｉｉｉ）リポソームの中に包含された治療用物質からなるリポソームを含み、細胞に投与される際に、細胞毒性となるのに充分な量の前記化合物を細胞の中に蓄積させることを特徴とする組成物。
【請求項１２】
前記親水性高分子は、少なくとも約３，５００ダルトンの分子量を有するポリエチレングリコールである、請求項１１記載の組成物。
【請求項１３】
前記治療用作用物質は化学療法作用物質である、請求項１１又は請求項１２記載の組成物。